

小笠原島紀事

廿二

和書門			
三三	三三	三三	三三
冊	架	函	號

內閣文庫		
三三	三三	三三
冊	架	函

內閣文庫	
番號	和 29345
冊數	33 (22)
函號	173 181

地七九

内一〇八八八號





Faint vertical text impression on the left page, possibly bleed-through from the reverse side.

扶
母島部
真景園



小笠原島紀事卷之二十

目錄

小笠原島真景圖

母島、部

西一〇八八號



小笠原嶋真景圖

母島之部

海一〇八ノ部



目録

二月十日父島より
母島へ渡海咸臨丸
船中より全島西南
山面を見よ姉妹
諸嶋凡て図外ニ
あり

小島山

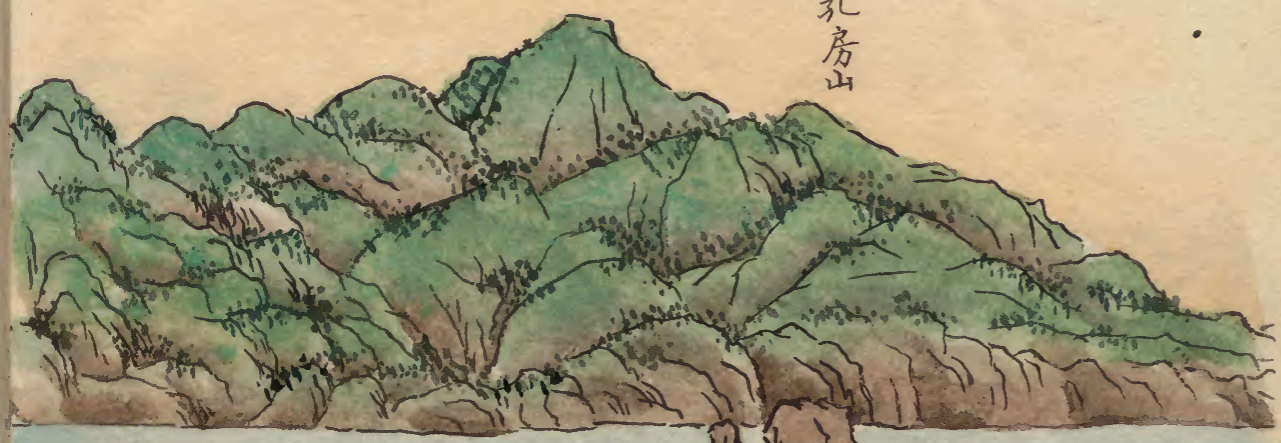


港村沖

浦南

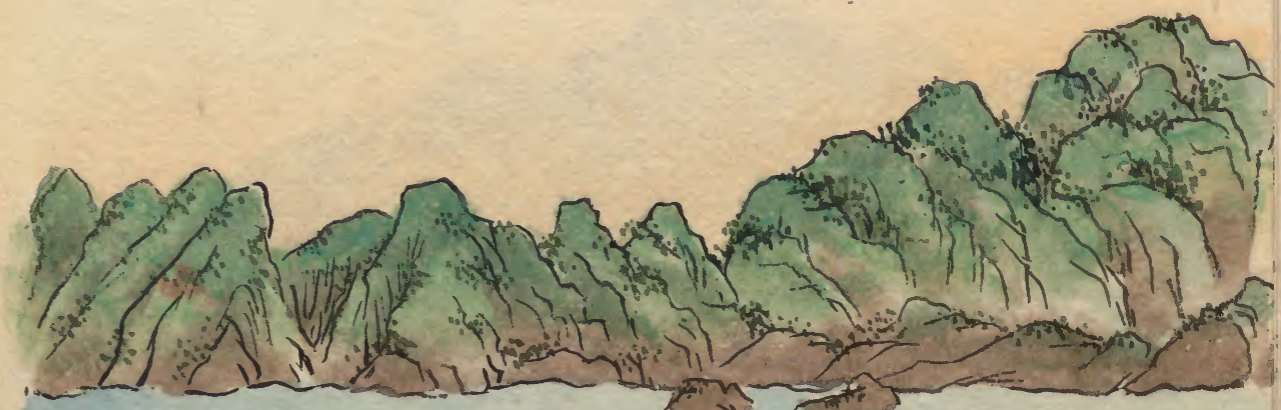
鈕先山

乳房山



谷ヶ子櫛

其二



兜岩
へルリ
紀行
兔岩
アリ



母島沖村港ノ圖
神





母島沖村の
おいら
吉女
舞躍
之図

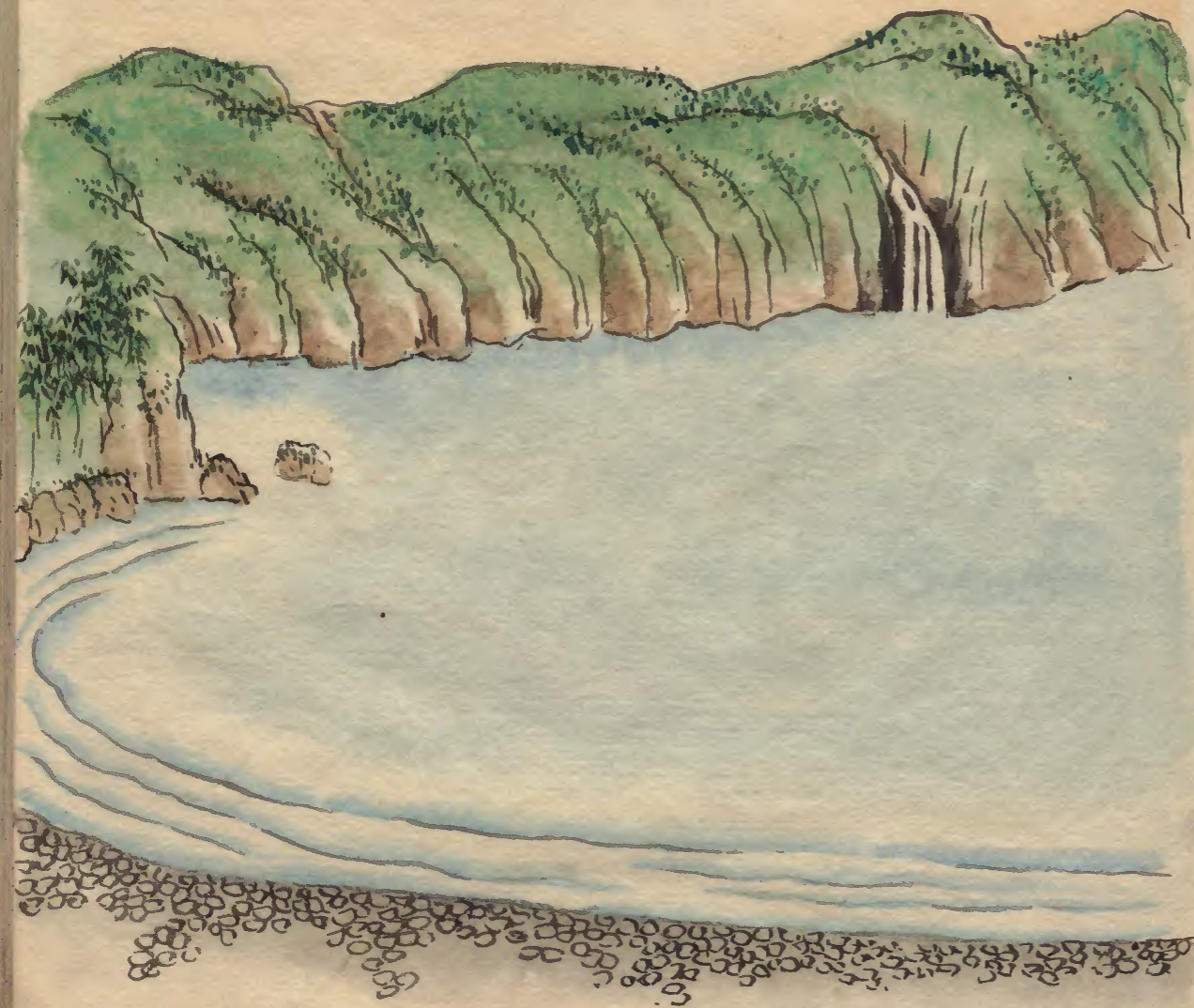


母島の内

沖村港湾中
西の方較ヶ岸より
巽の方と觀望す

饅頭島
下唱

滝晴日
續け
水廻る



母島之内
 沖村ノ北乳房山ヨリ
 南望ノ図



初森浦
海上
望図





姪島



母嶋乃内
沖村の北
乳房山より
東洋

此山上に
藤丸帯ト云
鳥の巣多
往寺にて
挿ムトハ
後丸帯トハ
天信翁の子

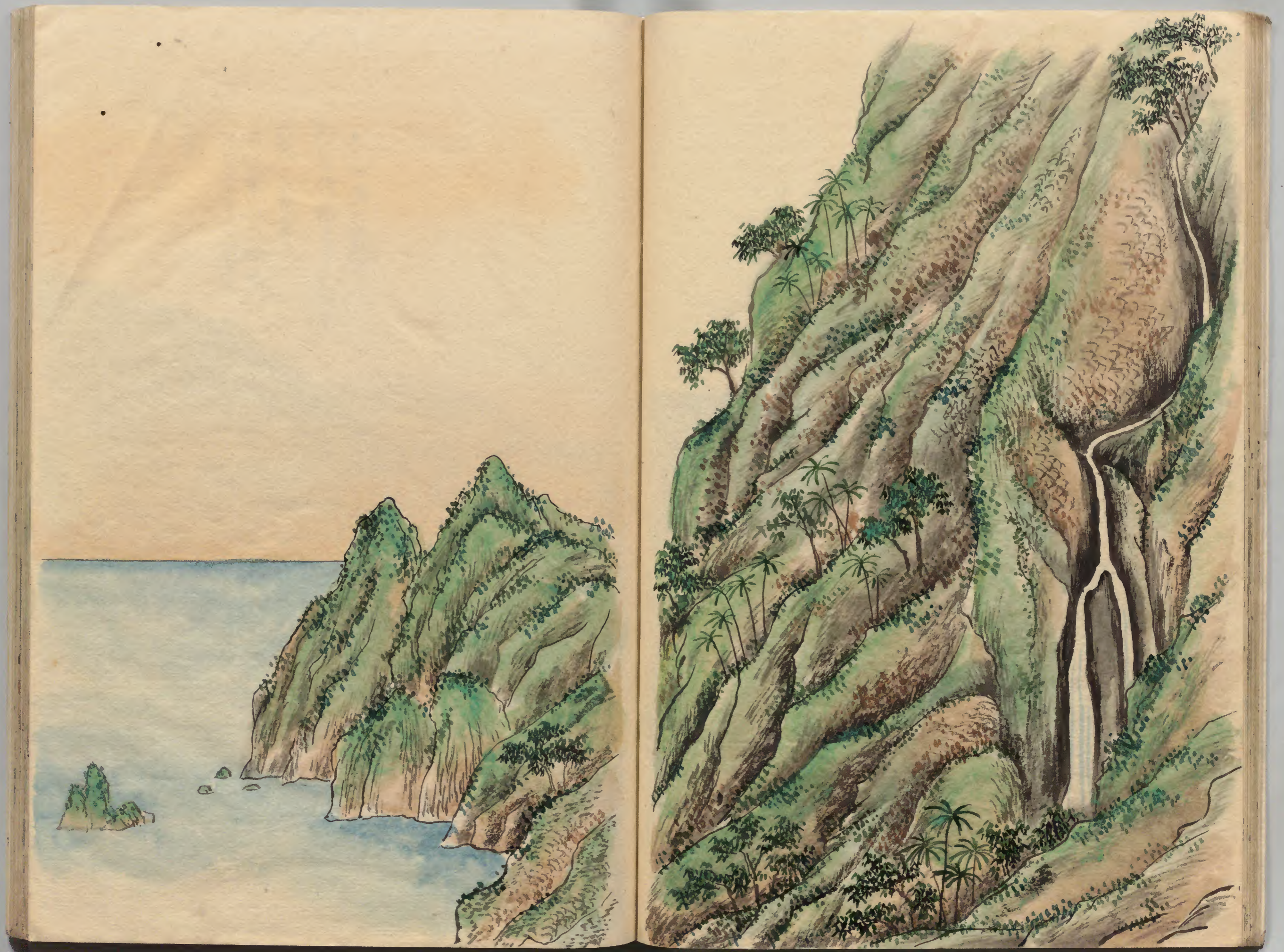
妹島



其二

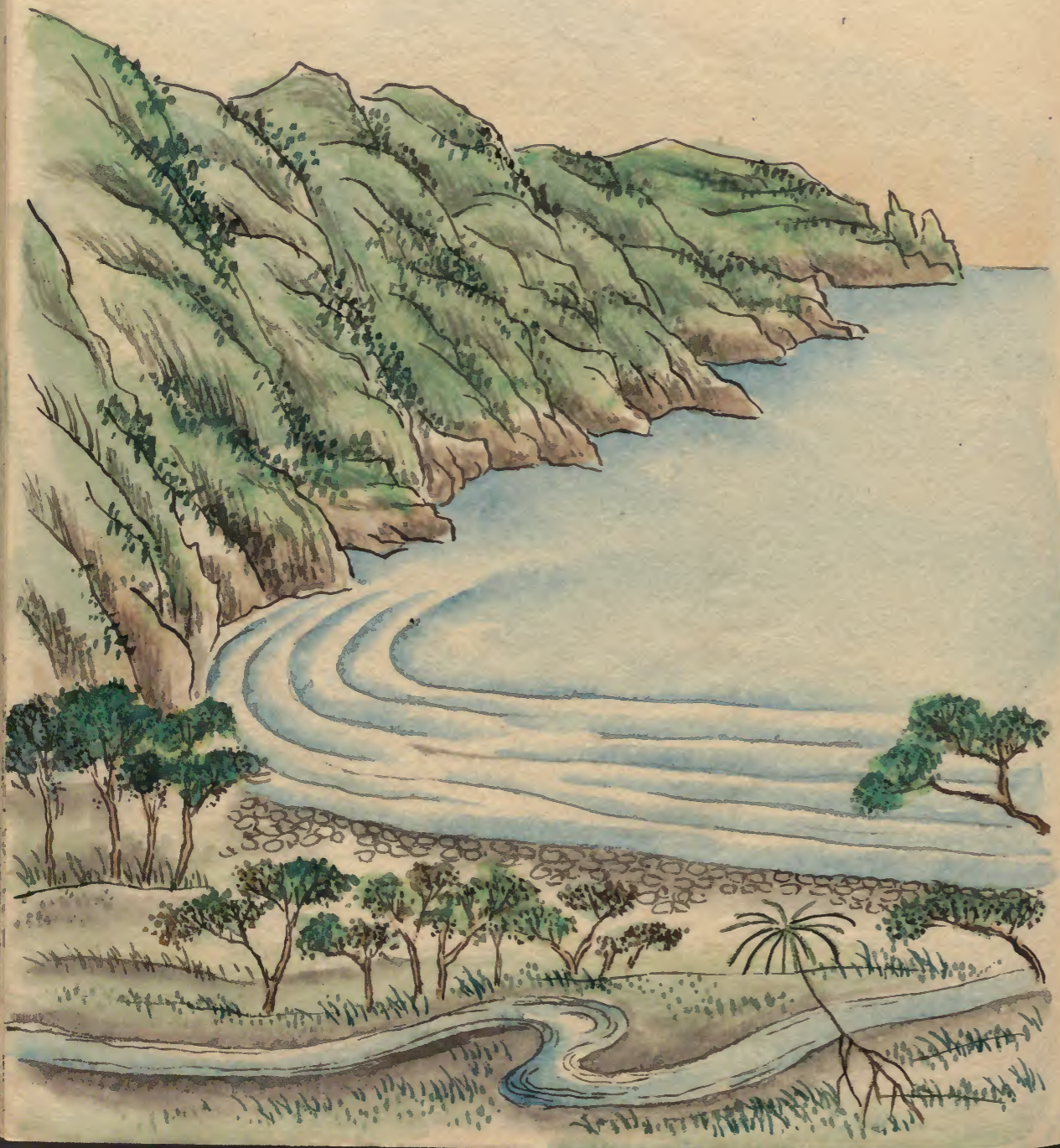
同上より
左の方を見る





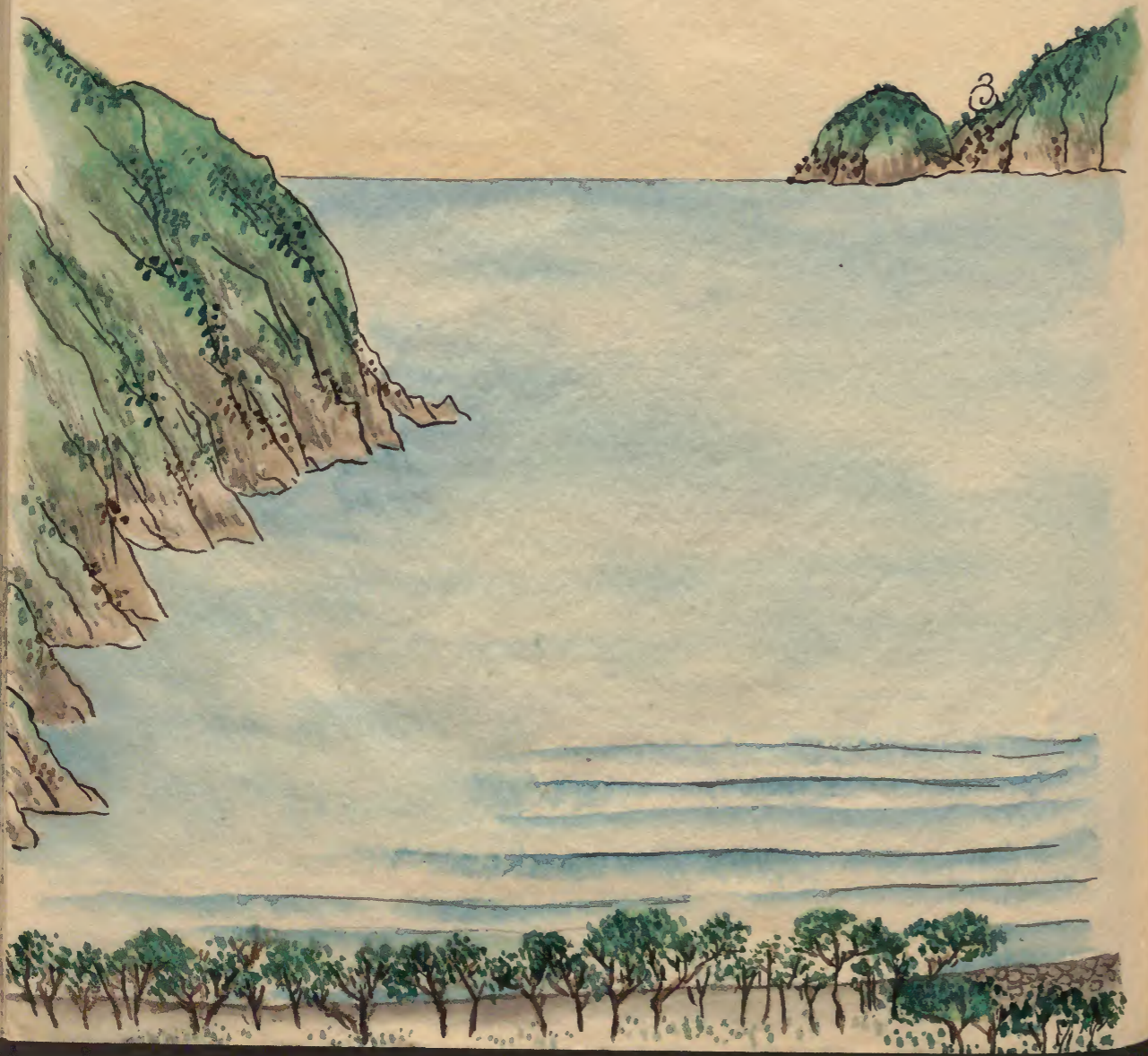
母島の内
北港

二月廿日廿二日巡見の
節全權初の兩夜
此所ニ露宿す
は道野猪多し帰途
一日ノ四頭を獲る

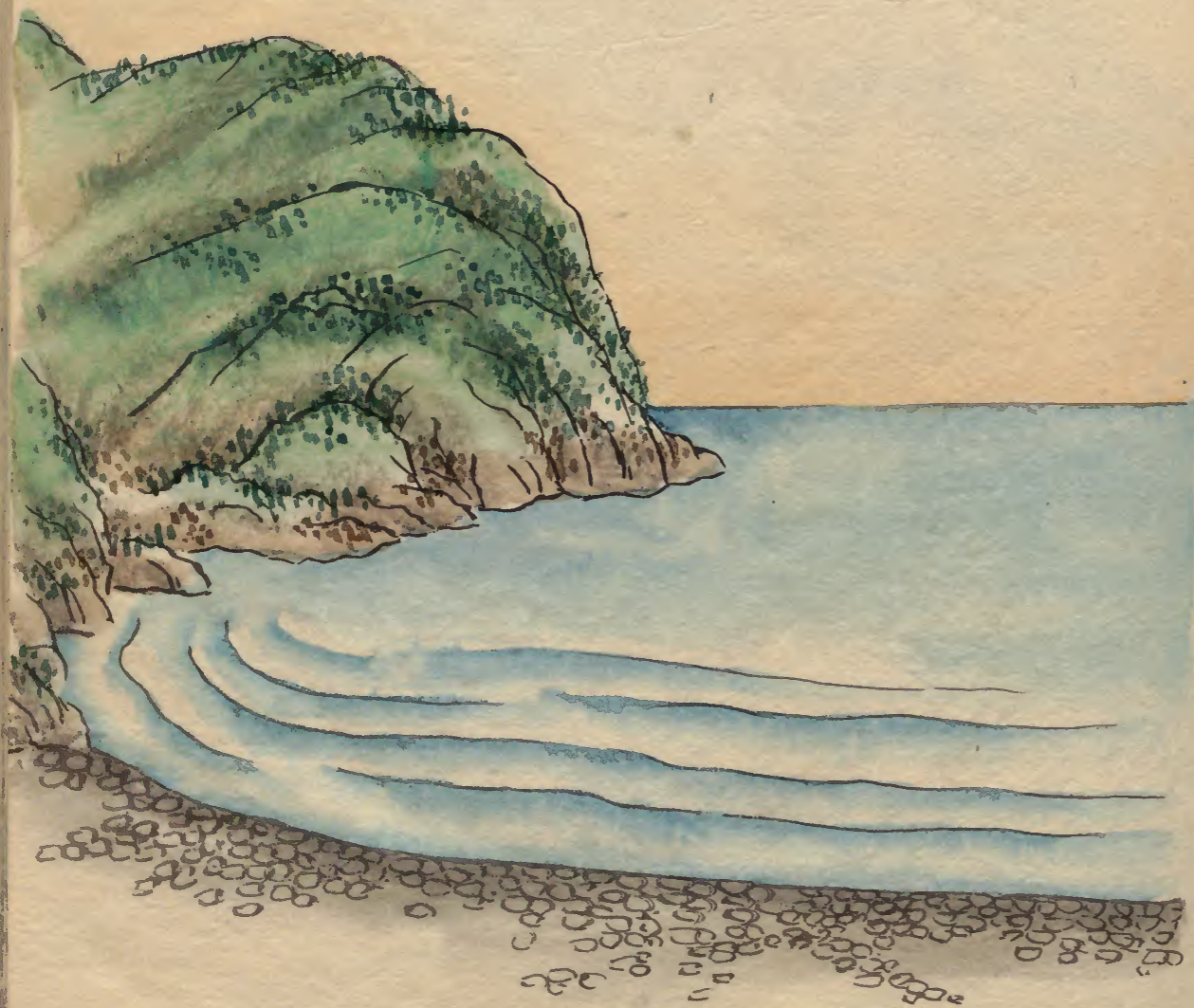


母島の内
東港

古名片港ト云
波荒ト小舟
寄雅



母島之内
西港之景



母島の内

東港の岬

石門 15

高十丈幅七八丈

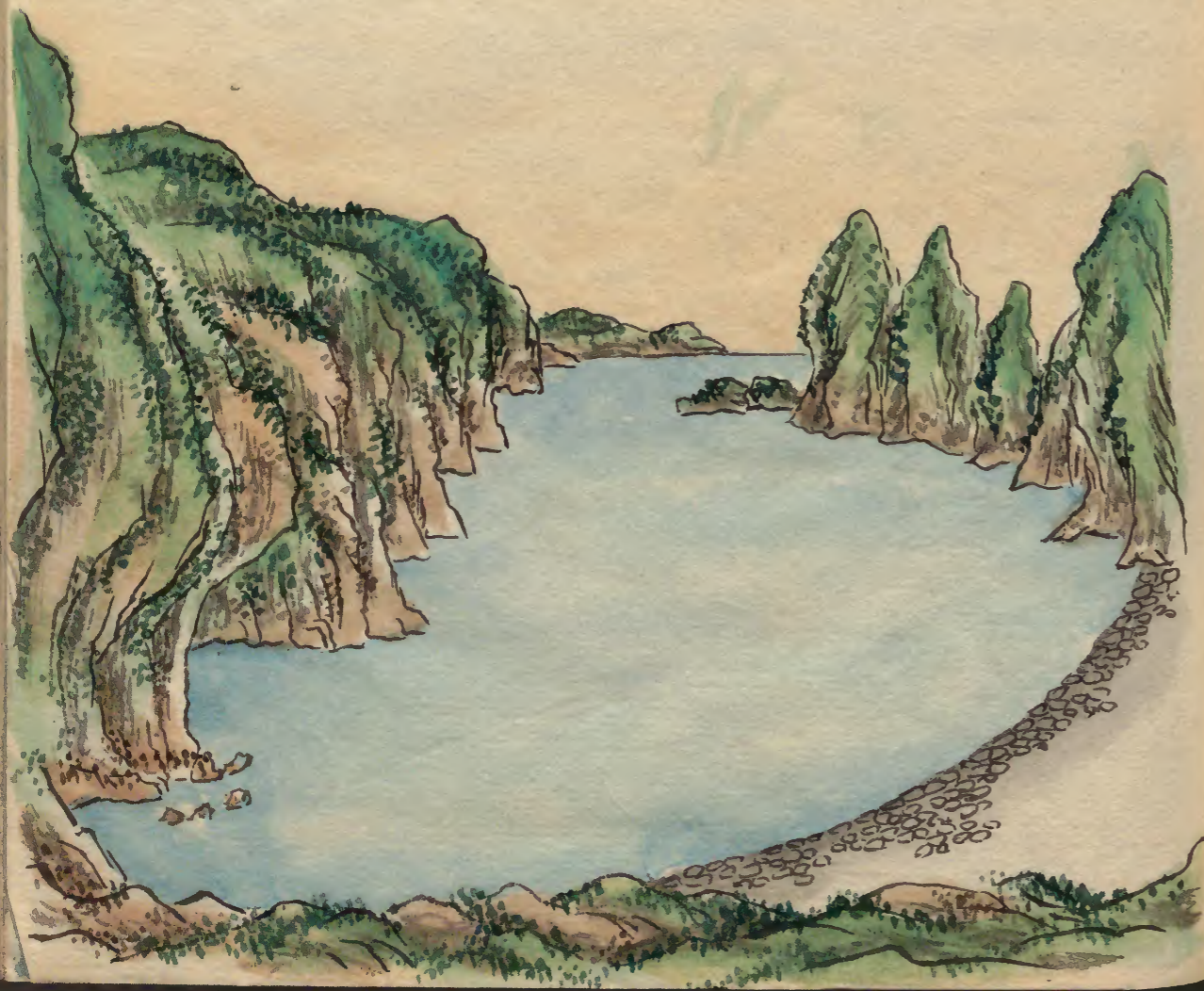
15層 猛波

小舟 難



母島く内

二月十九日両全權
巡見く南浦より
北の方着船と一寄



母嶋の内

南浦小富士山
頂より西北の
方と見る



島向

母島之内

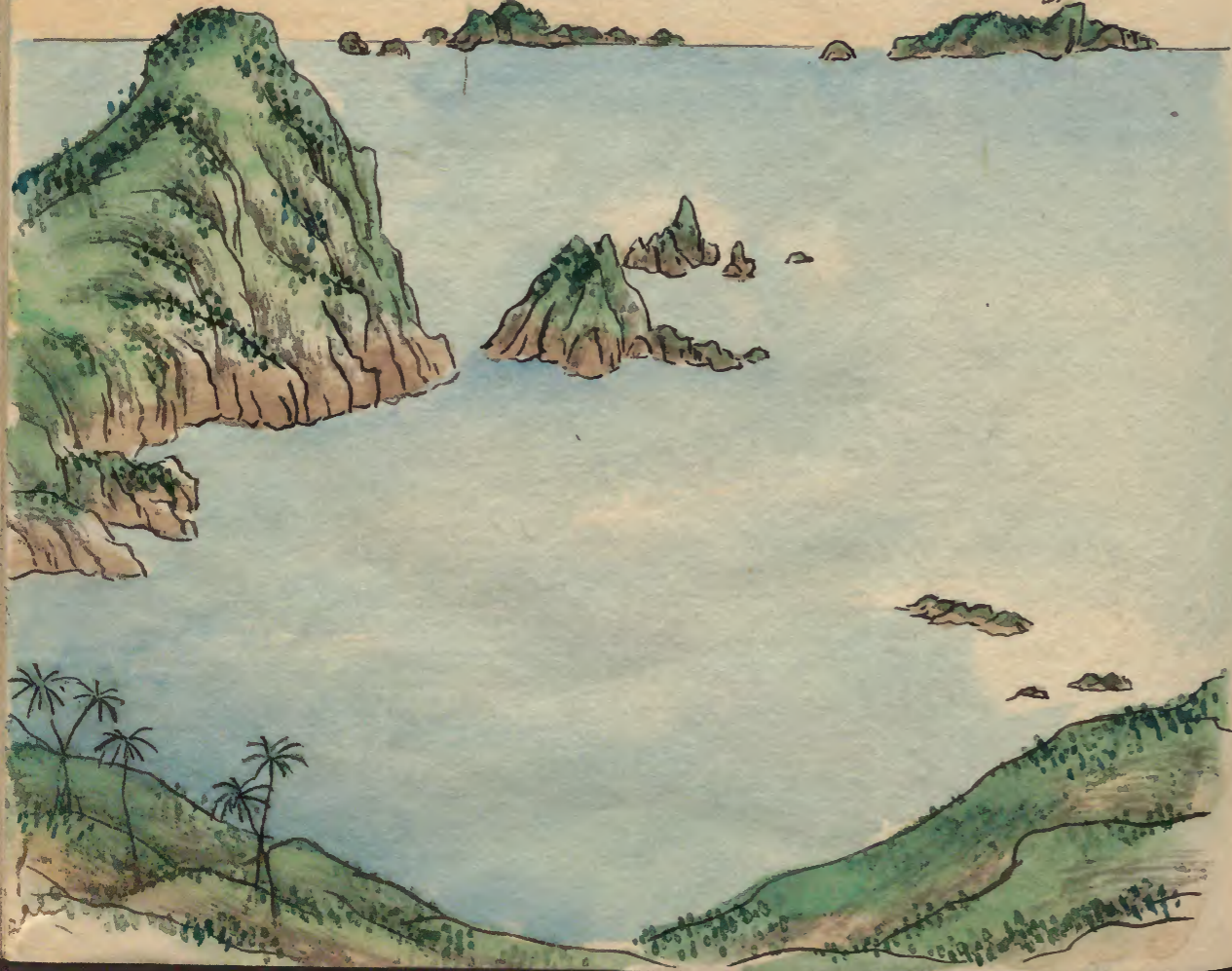
二月廿日巡見の事
平島西の方山より
東南に面して姉妹
諸島と見る

姉島

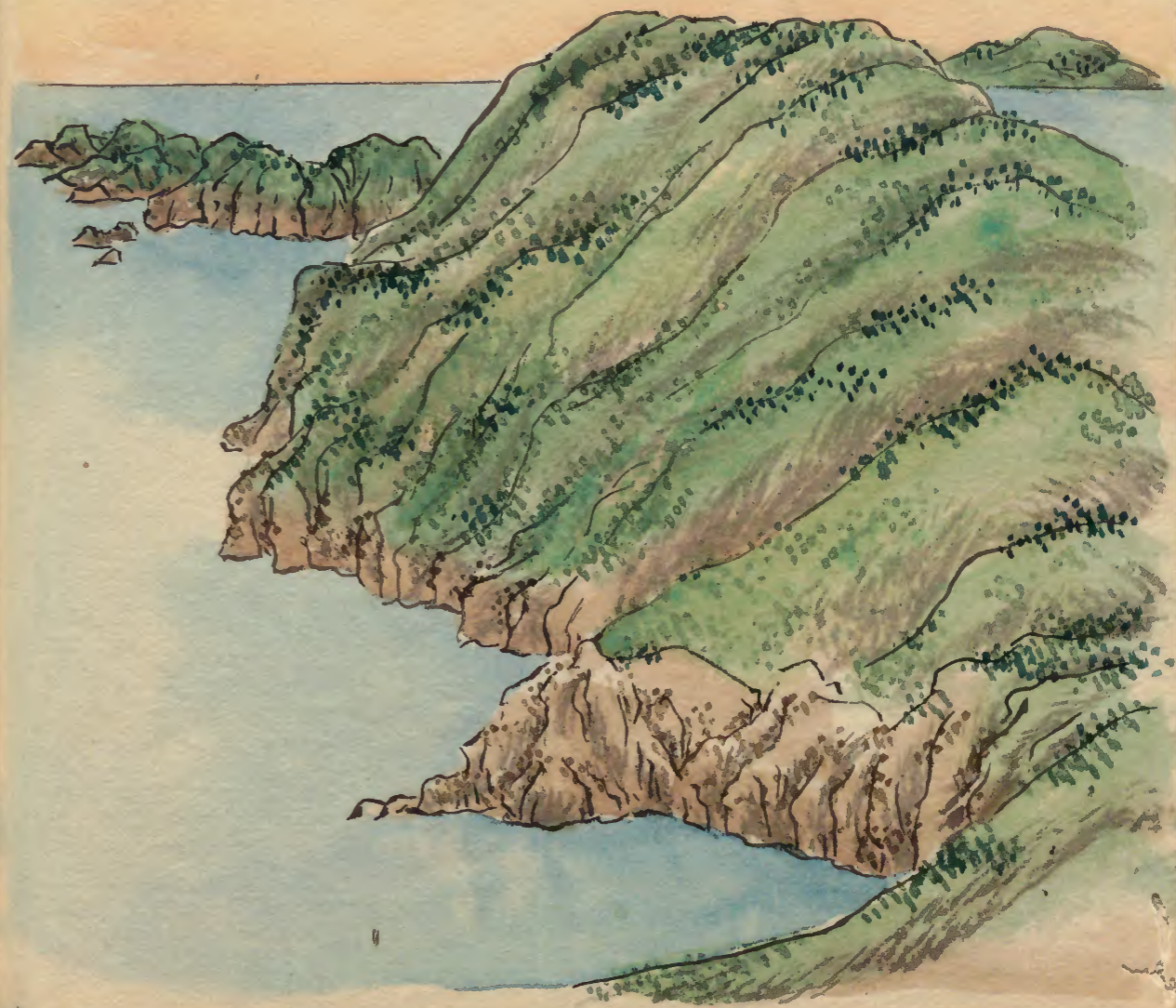


妹島

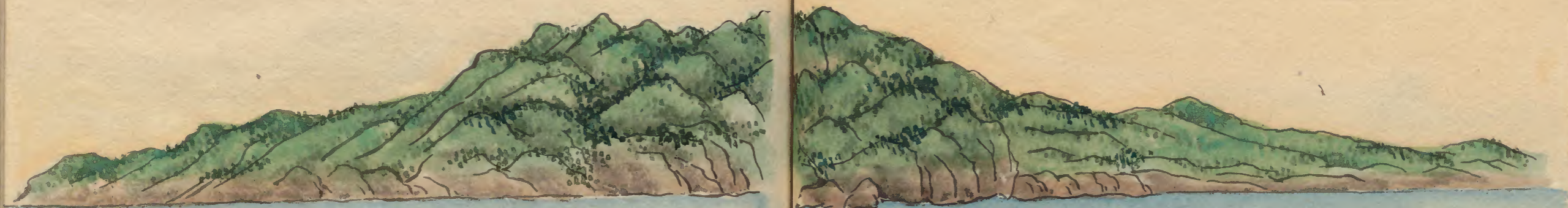
姪島



母島 屬嶋 平島
北の方山より東北の方
母島と眺望す
衆島周圍にして湾中の
かゝ鯨魚多々尾緒を
湖波にお音敷里の外に
響く其振盪中の新を
見ると似しや



其二



母島
屬嶋の内

向島

丑寅の方
海上より
望



妹島

平島丑寅
の方山より
望の方
より



姪島
同所より
卯辰の
方より

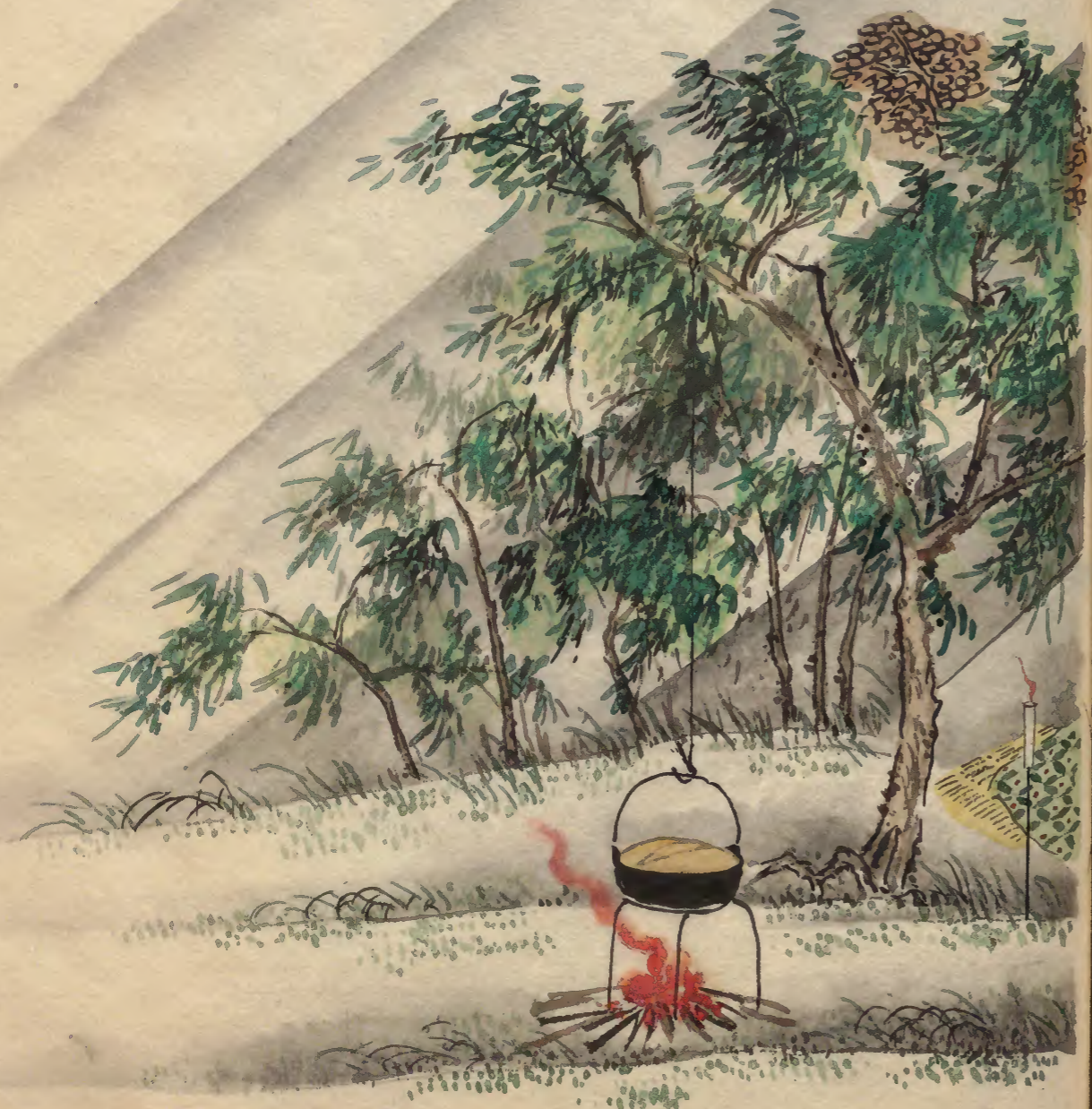


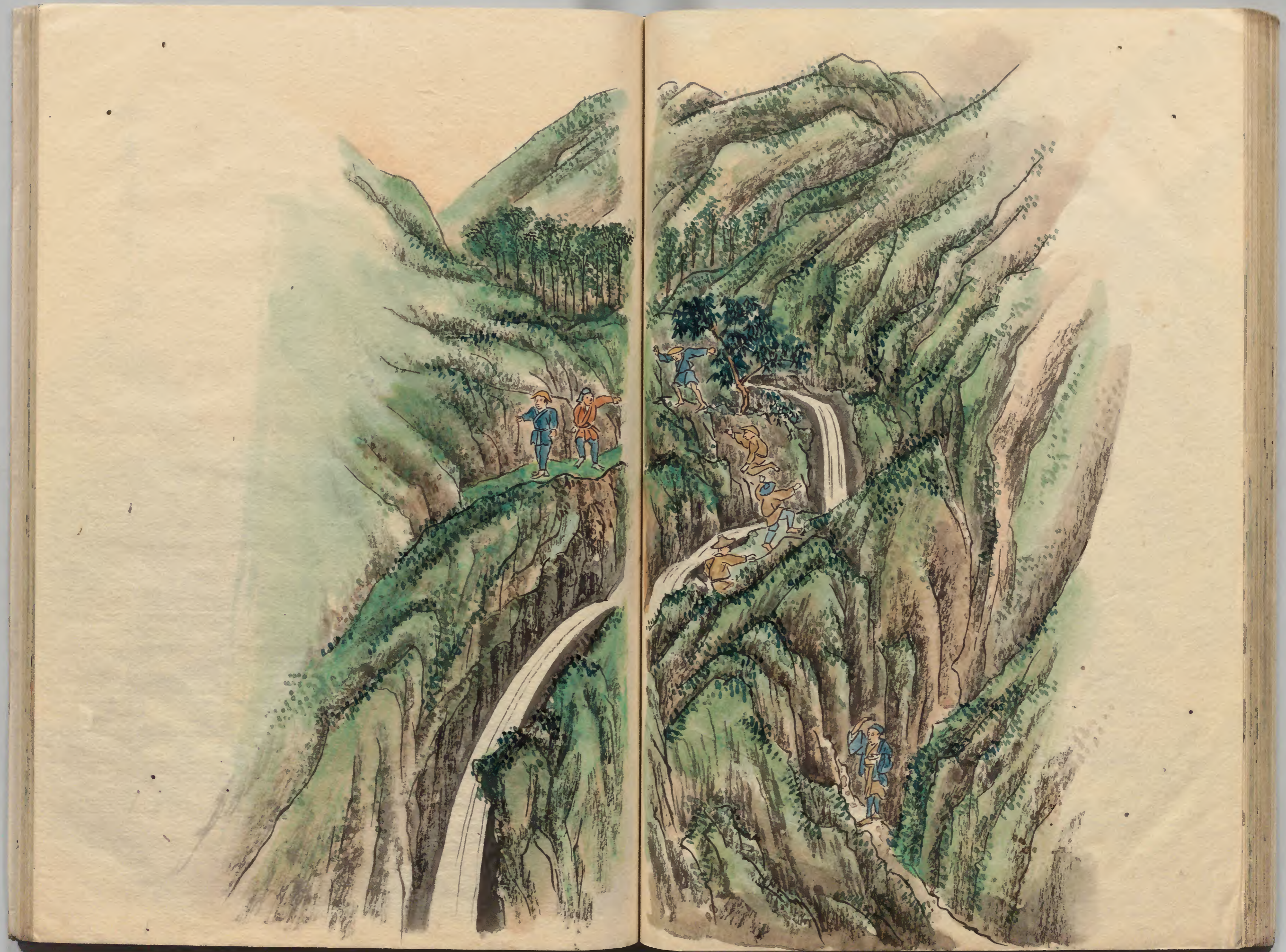
姉島

平島丑寅
の方山より
未の方
向より



兄島野陣濱
北港寺三於
雨中露宿作
如此





母 嶼 南 浦 之 図

補

島 嶼

島 向



母島山上北望父島之圖
神

島 父



母嶋北村後之山上
眺望之図
補



母島北村港之方
湾中眺望之図 補



向島山上眺望之圖

神



母崑簀浦雨中
神



母嶋南午ノ
山上喫午飯圖



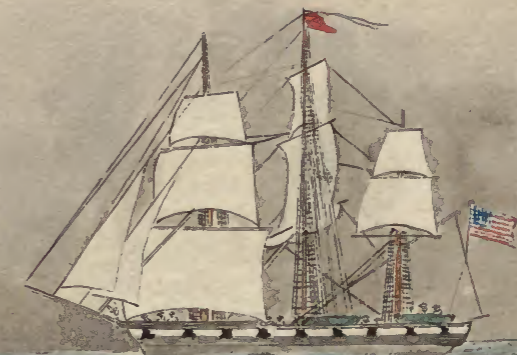
母島乳房山上
眺望三國補

島 父



成三月十日

咸臨丸歸途洋中
遇亞米利加鯨漁船
圖神





ラハロト唱
皇國人呼て蝟の足とツク
大なる高拾間余とツク





ヘンハムト唱
 皇國人呼て野芭蕉或ハ野椰子
 子ハ楠橋桐ノ類一高拾間余ニ及ヘリ

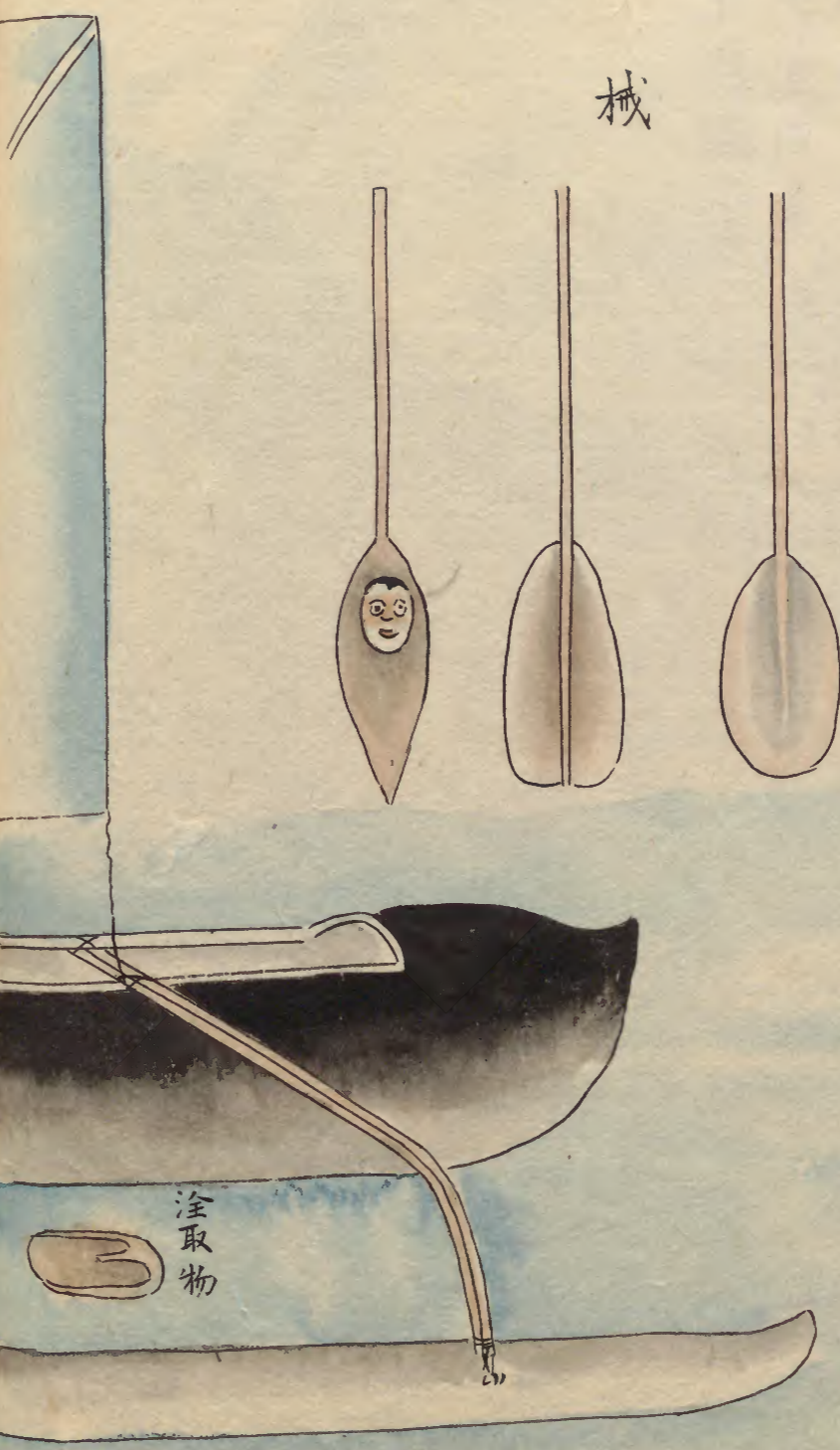
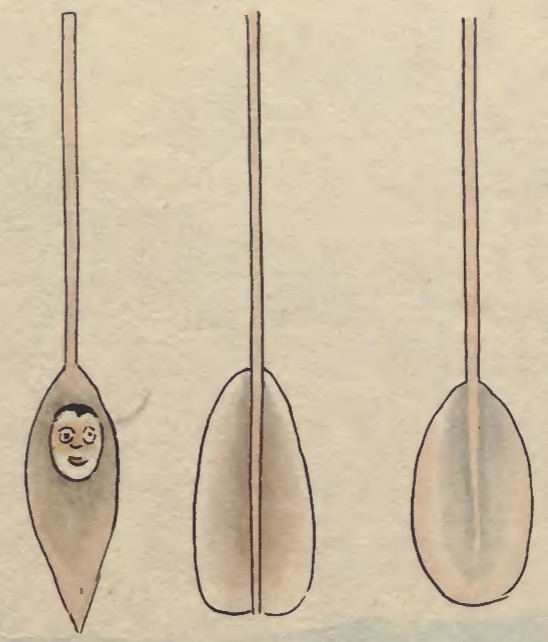
島中外國人の
家屋如图周圍
橋欄の葉と
草々



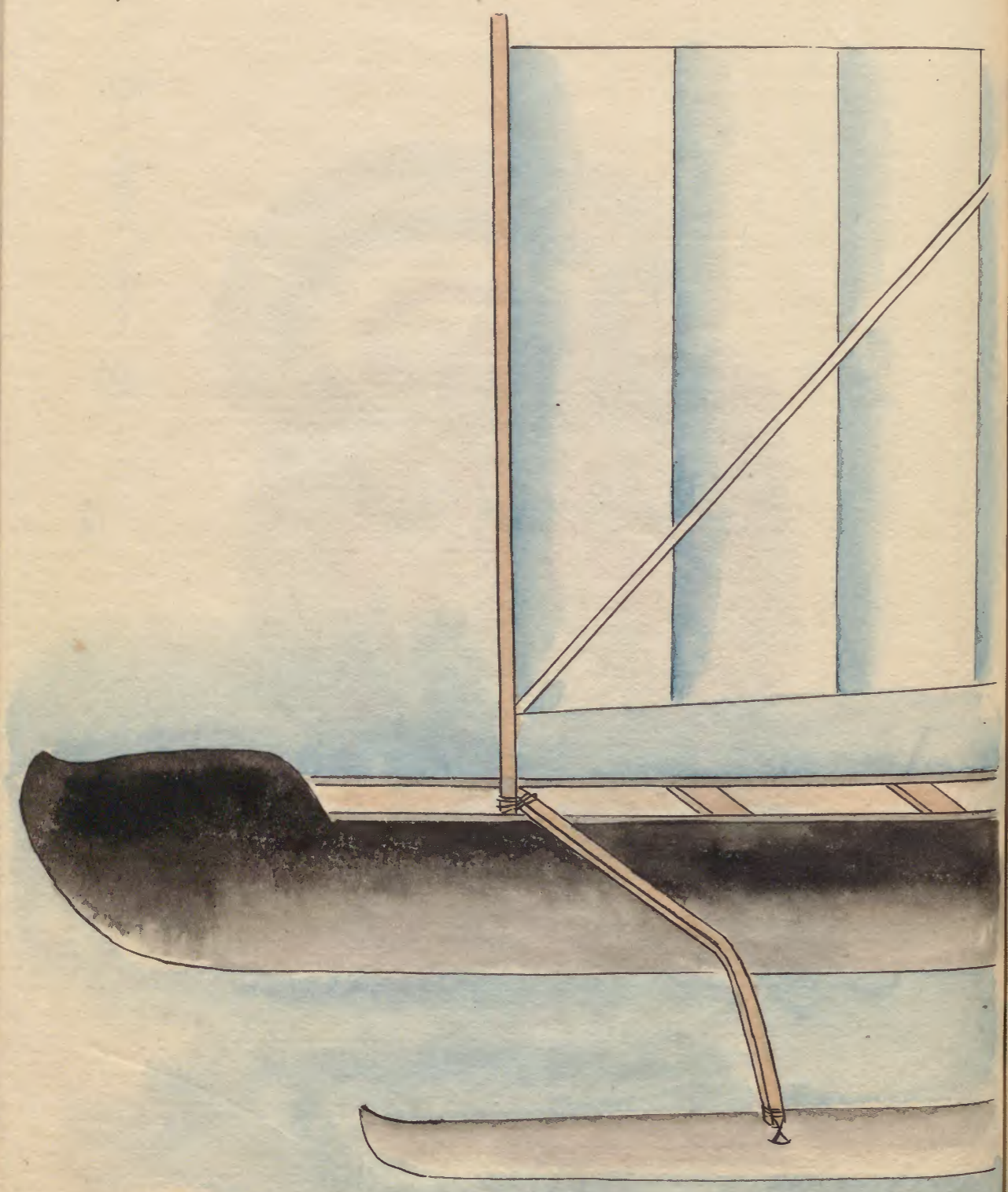
クヌー船之図

丸木を刳えく造る島民
皆くまの舟を漁船に風の
柄柄を母島にも運来せし
云々

楫



塗取物





クヌー船ヲ装ふ面々罔々一神

其二



文久元年辛酉、有
命巡視小笠原嶋、創置官府、撫其住民、受其任者、外
國奉行水野筑後守、與其僚屬調役由井太左衛門、
調役並田邊太一、書物方富田達三、須藤誠一郎、定
後元締佐小花作之助、定役益田鷹之助、同心松浪
推之丞、目付服部歸一、與其僚屬徒目付佐藤真三
郎、松本三之丞、小人目付林和一郎、其他勘定深山
宇平太、權普請役上村井善平、司其資財魚測山川、

江川太郎左衛門手附中濱万次郎、長崎通詞堀一
郎、通其言詞、官醫小野苓菴、大垣藩醫官宮本元道掌
其醫療、兼探物產、繪景物、而所坐咸臨官船、小野友
五郎、統其指揮、塚本桓輔、松岡磐吉、豐田港、西川倍
太郎、按其針路、紫柴弘吉、淺羽甲次郎、鈴木録之助、令
其運用、杉浦金次郎、喰代和三郎、高橋榮司、運其漚
機、近藤熊吉、掌其銃礮、矢野澤次郎吉、轄其用費、外
有水夫從僕若干人、以冬十二月三日發都、至翌壬

戌春三月廿七日還、為程千幾百里、為日百十有六
日、小笠原島真景圖成、乃附題姓名如右、

玉乃天有浦島云之好和乃
波輝ふいふ美くは苦心之空他
知多見ふ心也仕ふ事皆以丹精
く何さるるあふしはまはれり
山行辨以く狗若くは年と
相く結毛くは年と
此は若くは世に異同も有るは
別志中よりく世に集るる為
ふ結毛くは年と
若くは世に異同も有るは

初を好むは玉乃天有浦島云之好和乃
波輝ふいふ美くは苦心之空他

十一

玉乃天有浦島云之好和乃

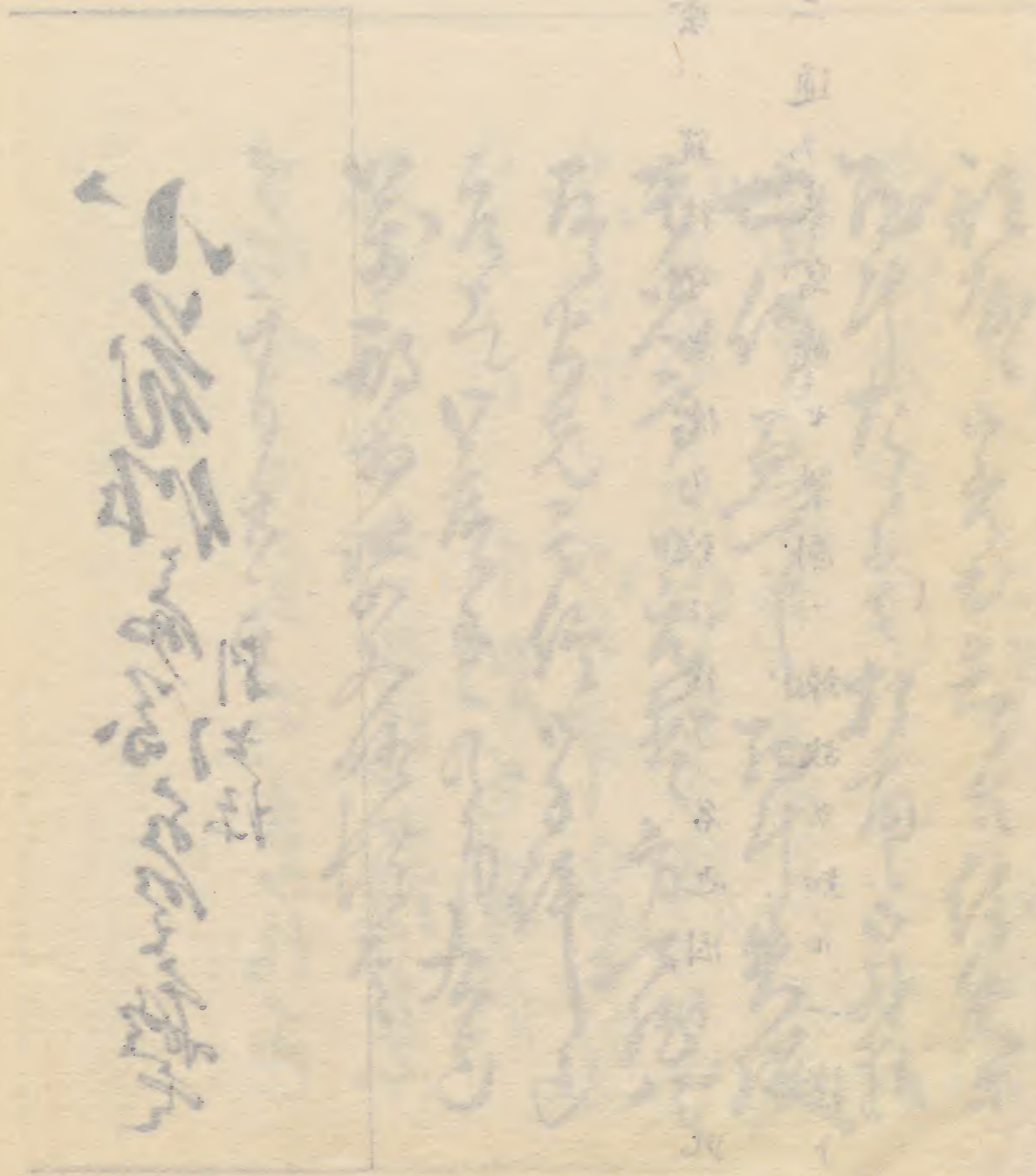
玉乃天有浦島云之好和乃

玉乃天有浦島云之好和乃

Handwritten text in cursive script, appearing as a faint bleed-through from the reverse side of the page. The characters are difficult to decipher due to the lightness and style of the ink.

Handwritten text in cursive script, written in black ink on the left page. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. The characters are more distinct than those on the opposite page.

真景圖二本アル旨ハ既ニ凡例ニ云フ如シ原圖
 一本ハ小花作助力所蔵ヲ以テ疾ク本省ニ摹寫
 シ書庫ニ蔵メラル其圖及又同人カ蔵スル所ノ
 再校圖ヲモ借り得テ對照スルニ總テハ大同小
 異也ト雖モ原圖ニ脱スルモノモ亦少カラス因
 テ畫圖外務權少録河野雪巖ニ議リ兩圖ヲ參考
 シ其脱ヲ補ヒ此圖ヲ製リ寫字生中島政信ヲシ
 テ摹寫サセシメ以テ紀事ノ卷末ニ附シ參考ノ



一端二備ノ

其類ノ漸ク山圖ノ繁ク高阜至中島知引ト

大徳備ノ漸ク山圖ノ繁ク高阜至中島知引ト

是也

再録

其圖ノ大向ハ

一本ハ小字新眼ハ和麻ノ以テ森々本古ノ草

真景圖ニ本ヤ古ハ所ニ上開ニ云々以テ和麻



站
傳
二



